

根室地区サッカー協会 フットサル審判員研修会 報告

報告者：根室地区審判委員会 二ノ宮

- 【 実施日 】 2023年1月9日（月）
- 【 会 場 】 中標津町総合体育館
- 【 講 師 】 （公財）日本サッカー協会フットサル3級インストラクター
- 【審判委員会】 茂木、越河、二ノ宮
- 【 参加者 】 入田、成田、参加校帯同審判員
- 【 研修内容 】 審判実技「全道フットサル選手権 2023 U-14 根室地区予選」

今研修会のテーマを「円滑な試合運営」とし、中でも「レフェリーチームとして選手の違反を未然に防止するためにはどうすればよいのか」に焦点を当てて試合に臨んでいただきました。

フットサル競技におけるプレーの再開方法の1つに「キックイン」がありますが、競技規則には、ボールをけり入れるとき、「ボールは、ピッチを出た、または天井に触れたところから最も近いタッチライン上で静止していなければならない」、「チームがボールをけり入れる準備ができてから、(中略)4秒以内にボールをけり入れなければならない」と定義されています（一部抜粋）。これらが守られなかった場合、相手チームにキックインが与えられますが、違反が起きる前にレフェリーチームとして何かできることはないでしょうか。

例えば、ライン上にボールが置かれていないことがわかっていながら、そのまま行なわせ、違反を犯したとして相手チームにキックインを与える。判定は正しいですが、それは円滑な試合運営に寄与できているのでしょうか。ボールをけり入れる前にレフェリーが「ライン上にボールをおいてくださいね」など選手に声掛けをするだけで違反は犯されず、フットサル競技の魅力の1つであるスピーディーな試合展開に貢献できるはずです。

研修会テーマを伝えた後の試合では、円滑な試合運営を図るべく選手と積極的にコミュニケーションを取る姿が見られました。中でもキックインでの再開時の声掛けのみならず、ゴールクリアランスやフリーキックで4秒カウントを始める前に「カウント始めるよ」といった声掛けをするなど、テーマである「円滑な試合運営」を研修生各々が応用・水平展開する状況が見られました。

研修生自らがよりよい試合展開を考え、また、選手のために審判員として何をすべきなのかということを考えながら試合に臨む姿がとても印象的でした。

今後もこういった研修会を多く開催し、根室地区審判員のレベルアップを図りながら、魅力あるフットボールに貢献できればと思います。

《参加者コメント》

◇帯同審判員 Kさん

普段、インストラクターから指導されることが減多にないので、とても良い経験になりました。

◇H・Iさん

大会を通じて、判定の基準を一貫し、競技規則を的確に適用しながらスムーズに試合を進めることが出来たのではないかと思います。しかしながら、アドバンテージの適用や、ゲームコントロールに課題が残る部分もあった。試合の振り返りにインストラクターからアドバイスをいただいたことを踏まえ、選手への注意や声掛け等の必要なマネジメント、ゲームコントロールを心がけていきたい。

◇T・Nさん

声を事前にかけてたり、選手とコミュニケーションを取ったりすることで、試合を止めずにコントロール出来るものだと感じました。普段4種での活動がメインで、試合を落ち着かせるという視点をもって審判をする経験がなかったので、とても良い経験をさせていただきました。

試合の様子①



試合の様子②



試合前の研修生



研修生とインストラクター

